

◆ 礼儀正しさは一生の財産

今年度 4 月から船引小学校の教職員は「本気と礼節の教育」を合言葉に子ども達の教育に取り組んでいます。「礼節」という言葉は何か堅苦しく、伸び伸びと生活する事と相反する事のように聞こえるかも知れませんが、そうではありません。礼儀正しく人に接する事も、節度を守って生活する事も、社会生活の中で自由と権利を尊重されながら自分らしく生きていくためには必要な事です。学校は子ども達が社会に出ていくための準備をする場ですから、社会人としてのコミュニケーションの基礎である礼儀正しさも、何事にも行き過ぎる事のない節度も身に付けられるよう、教職員は日夜、指導をしているのです。

5 月末のある日、うれしい事がありました。高学年の健康診断を終えられた、ある学校医の先生がお帰りになる際、私にこうおっしゃいました。

「子ども達が、とても礼儀正しいですね。素晴らしいです。」

私は教員としても校長としても、そのような言葉を学校医の先生に掛けてもらった事が無かったので驚き、喜びのあまり踊り出したい衝動を抑えながら「あっ、そうですか。ありがとうございます。」としか答えられませんでした。身に付けた礼儀正しさは人とのコミュニケーションを円滑にし、社会を生き抜く大きな力となります。先生と家庭とで協力すれば、さらにしっかりと身に付き“一生の財産”とも呼べるようになって考えています。



◆ 名前の呼び方と礼儀正しさ

学校において授業中や改まった場面では、先生は敬称(「君」「さん」)を付けて子ども達の名前を呼んでいます。性差別を感じさせないために男女ともに「さん」を付けている先生もいます。明確な決まりは無く、子どもの人権を意識して敬称を付けるのが一般的です。しかしながら、望ましくない事を指導する時や親しみを込める時は敬称を付けずに呼ぶ事もあります。先生は時と場に応じて敬称を用いています。また、新聞社の多くは小学生の男子には「君」、女子には「さん」、中学生には男女とも「さん」の敬称を用いています。

「○○ちゃん」は子どもの自立心が育ちにくくなるそうなので先生は使わない事が多いのですが、私は廊下や校庭で会った低学年の女の子を「○○ちゃん」と、つい呼んでしまいます。

ご家庭では子どもさんをどのように、お呼びでしょうか。名前や愛称がほとんどだとは思いますが、年上の家族が子どもに「君」や「ちゃん」を付けて呼ぶ事には注意が必要です。年上の家族を敬う気持ちが薄れて「礼儀」の意識が育ちにくくなるそうです。また、驚くことに、成長するにつれて他人への攻撃的な性格が強くなるというある大学の研究もあります。呼び方一つで違うものだなと考えさせられました。



学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。